

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成21年11月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2873600411		
法人名	医療法人社団 西はりまクリニック		
事業所名	西はりまグループホーム 昌仙庵		
所在地	兵庫県たつの市誉田町福田780 - 40 (電話) 0791 - 62 - 5600		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成21年10月23日	評価確定日	平成21年11月12日

## 【情報提供票より】(平成21年10月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成15年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 10人, 非常勤 6人, 常勤換算 12.4人	

## (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1 ~ 2階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	17,000 円	
敷金	有(135,000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	200 円
	または1日当たり		1,100 円	

## (4) 利用者の概要(10月15日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	1	要介護2	8		
要介護3	7	要介護4	0		
要介護5	2	要支援2	0		
年齢	平均 83歳	最低	67歳	最高	91歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	西はりまデンタルクリニック・藤末内科
---------	--------------------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

たつの市郊外の自然豊かな山のふもとに、医療法人社団はりまクリニックを母体とした社会福祉法人「円勝会」の高齢者介護施設と障害者施設が隣接するその一角に「西はりまグループホーム昌仙庵」は位置しており、開設して7年目になる2ユニットの事業所である。日当たりのいい玄関には色とりどりの草花が生き生きしている。昼下がり、居間では日向ぼっこのできる空間もあり、一人ひとりのペースや自由を大切に安らぎのある住まいとなっている。歯科医院やクリニックが併設された恵まれた環境を生かし、ターミナルケアにも積極的に取り組み、同時にグループホームの特徴であるきめ細かいケアの追及に余念がない。たつの市行政との連携や運営推進会議の意見交換を活用し、さらなるサービスの質向上について取り組みを期待したい。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	<p>昨年の外部評価から改善シートが作成されて、施設については改善された。地域連携、家族協力、研修、看取り指針、災害等の主だった課題については、早急もしくは継続しての取り組みを行う。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)</p> <p>今回の自己評価では、改めてグループホームの理念、家族との関係、業務や体制等の課題をあげ、今後の改善点を確認できた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)</p> <p>会議は、行事等の開催時に定期的開催し、地域包括支援センター職員も含めた市職員の複数参加、他事業所の管理者、地域自治会役員、民生委員、家族会役員の参加により、事業所の課題について出席者に問いかけた。取り組みとしては、事業所内事故の責任について助言があり、検討できた。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)</p> <p>家族会の会長、副会長、会計等の役員は、運営推進会議や行事にも参加して意見の交換はできるが、年度末総会での出席は約半数位で、積極的な意見も聞かれていない。外部評価から意見箱も設置したが、意見は入っていない、運営への反映もできていない。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)</p> <p>日常生活における地域との連携は法人が主体であるが、事業所へも近所の人から収穫された野菜の差し入れなどが直接ある。以前は地域の老人会等では認知症への誤解があったが、現在ではクリスマス会や誕生会など交流も行っている。今後は、事業所として子どもたちとの交流も計画している。</p>

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を柱として、事業所独自の「手と手がふれあう、あたたかい介護」を管理者・主任職員を中心につくりあげ、事業所と入居者が身近で理解しやすいように工夫している。		グループホームの役割を今一度確認し、事業所独自の理念に地域住民との交流も取り入れる工夫を期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人理念は名札とともに携帯し、事業所理念は職員詰め所に掲示し、朝礼時確認している。		事業所理念は、管理者、主任職員を中心につくられ、身近でわかりやすい為、事業所の業務に浸透しつつある。今後も、さらに入居者介護に活かされ、生活にも反映できることを期待したい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	以前は地域の老人会等では認知症への誤解があったが、現在ではクリスマス会や誕生会など交流も行っている。今後は、事業所として子どもたちとの交流も計画している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価では、職員は業務や体制等の課題をあげ、今後の改善点を把握している。また、昨年の外部評価からは改善シートを作成して取り組み、改善も行った。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	2ヶ月に1回、行事等の開催時に定期的開催している。地域包括支援センター職員も含めた市職員の複数参加や他事業所の管理者、地域自治会役員、民生委員、家族会役員の参加があり、内容もその都度工夫している。		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	運営推進会議への毎回の出席等、連携がとれている。また、たつの市は平成20年から市内のグループホームの連絡会をつくり支援している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	毎月、入居者の担当職員は、日頃の生活の様子を伝える手紙と金銭管理の報告書を一緒に送り、家族の面会時にも随時報告している。2ヶ月に1回は、昌仙庵だよりも送付し、行事や職員の交替等も伝えている。		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族会の会長、副会長、会計等の役員は運営推進会議や行事にも参加、協力されている。総会は年度末に開催するが、出席は約半分位で、積極的な意見も少ない。意見箱も設置したが、意見は聞かれてない。		併設病院から施設入所待ちで入居する人もいて、グループホームを理解しないままに入居している人もいる。グループホームの機能や役割を理解し、家族と事業所が入居者を共に支えることを期待したい。
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	今年3名の職員異動があったが、退職する職員も入居者に挨拶できる関係にあり、入居者への影響は感じられなかった。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修を機会として、職員の個人での自主的な他事業所への研修をきっかけに、他の職員も参加するという取り組みが行われている。また、介護専門職への資格取得へも職員の意欲は大きい。</p>		<p>職員個々の研修への参加については、案内等が充分には伝ってなく、事業所の研修計画も作成されていない。今後は、職員の資質の向上のためにも、事業所は職員の意欲に応え、計画的に研修へ参加できるように工夫することを期待したい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者の外部研修を機会として運営推進会議に他事業所の管理者に出席してもらったり、主任介護職員の他事業所での自主的な研修から、事業所全体の研修に結びつく等の交流ができています。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>運営法人内の特別養護老人ホームのショートステイや通所リハビリ、デイサービスと連携して利用に慣れるようにしたり、顔見知りの入居者ができれば親交を深めてもらうなど支援する。また、週末には自宅に帰るなどの取り組みも行っている。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入居者から話を聞き、人生の先輩として生活の心得や、調理方法等の具体的な事まで教えてもらい、また、入居者も職員に話を聞いてもらうだけで、気持ちが落ち着く関係ができています。入居者に楽しんでもらえる事で、職員も楽しめるように接している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>事業所は、本年度から認知症ケアのポイントである「5つの視点」『その人らしいあり方』、『安心・快』、『自分の力の発揮』、『安全・健康』、『なじみの暮らしの継続』を意識し情報を集め、課題やケアプランを導くセンター方式を取り入れ、介護の質の向上に取り組んでいる。</p>		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、入居者や家族の思いを反映させ、職員の意見を聞いて計画作成担当者が作成している。計画書は作成後に家族に送付して確認してもらっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は6ヶ月毎の見直しと随時の見直しを行い、職員は入居者の状態についてカンファレンスで確認し、入居者の現状に即して計画の見直しや継続を行っている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>運営母体が医療法人で、事業所はクリニックに隣接されているため、特別な受診以外は事業所でも対応できる。また、健康管理については医療連携加算もあり、クリニックの看護師が週に4～5日は訪問している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の設置主体が医療法人で、入居者のほとんどが法人のクリニックをかかりつけ医として入居している。このため、特別な受診は家族が対応しているが、通常は事業所からの受診が容易であるため対応し、連絡調整も行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今年8月に4人の入居者が高齢等で逝去され、事業所は家族の意向を尊重してできる限りの対応を行ったが、終末は隣接するクリニックでの対応となった。事業所は「看取りに関する指針」を作成している。		「看取りに関する指針」は作成されているが、その運用についての家族の意向への対応については曖昧であるため、より具体的に内容を検討し、事業所として共有することを期待する。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者は人生の先輩として尊敬し、プライバシーに配慮した声掛けや対応をするように心掛けている。特に、言葉遣いは日頃から職員間でも注意しあうようにしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は生活支援が一部の利用者に偏らないように注意し、入居者一人ひとりの生活歴や趣味などをもとに、花の世話や縫い物・料理など、得意なことや希望することが行えるよう支援している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はクリニックの栄養士がつくり、材料が届けられて入居者は職員と一緒に準備や調理・片付けを行っている。また、月に1回は希望献立の日があり、買い物に出かけたり、外食を行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は毎日準備し、入居者は週に最低3回は入浴できる。また、入居者の希望により夜間浴も行っている。入浴を強く拒否する入居者には、機会をみて随時声かけして対応したり足浴や清拭を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの生活歴や力を聞き取り、その経験やできることを見出し援助するようにしている。特に、食後の片付けなどは入居者自らが、率先して行っていた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩は、天候等の状況に応じて法人敷地内の周回道路をまわり、木々や草花で季節を感じている。また、月に一度は職員とともに順番に車で外出したり、外食もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昨年の外部評価を受け、主任職員を中心として職員は身体拘束をしないケアを理解し、20時から5時まで以外は「鍵をかけないケア」に取り組み実践している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	年に2回、隣接するクリニックと一緒に通報・消火訓練を実施しているが、最近、夜間に入居者が火災報知機を誤作動させ、職員が対応に不安を覚えたことがあった。		1日も早く職員と入居者が安心して行動が出来るように、夜間想定の実施を期待し、同時に災害時対応マニュアルの効果的な活用を期待したい。また地域にも協力に向けて運営推進会議などでより一層に働きかけてほしい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	献立表に法人の栄養士によるカロリー量が表記され、栄養摂取への取り組みが具体化されている。また、訪問看護師の健康支援もあり、食事中には職員の声かけや介助による水分摂取も徹底されている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	各ユニットには広く明るいフロアがあり、壁には入居者や職員の書道や絵などの作品が飾られている。畳のスペースである居間には、こたつやテレビが置かれ、雰囲気を和ませている。ユニット入口では、暖かい日差しが入り、入居者が日向ぼっこをしていた。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	入居者の居室はフロアの両側に並び、入居者それぞれの個性的な表札が掛けられている。居室内は、ゆったりと落ち着いた雰囲気があり、整理整頓もされていて、過ごしやすさを感じた。		

 は、重点項目。